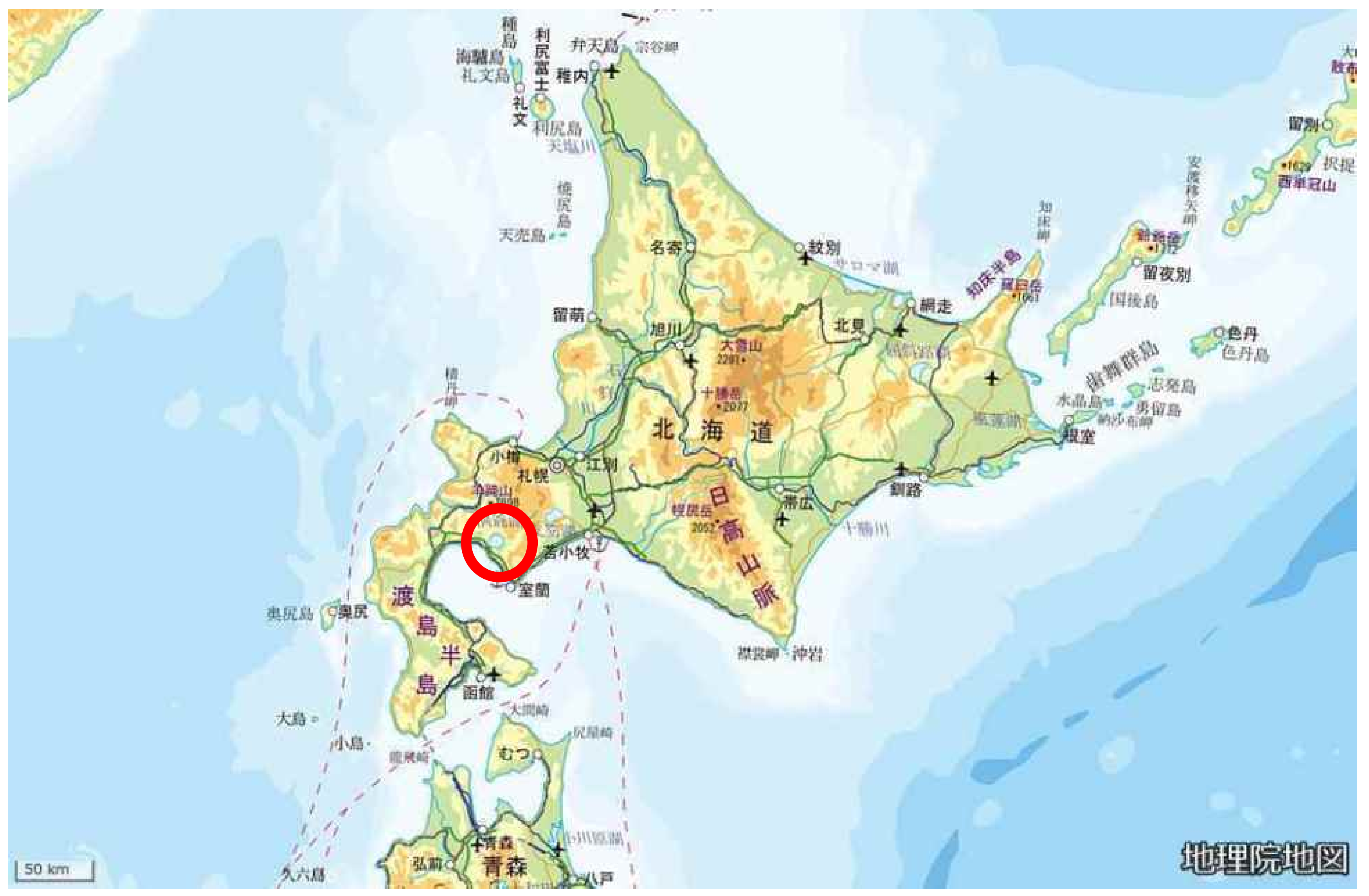


洞爺湖有珠山ユネスコ世界ジオパーク

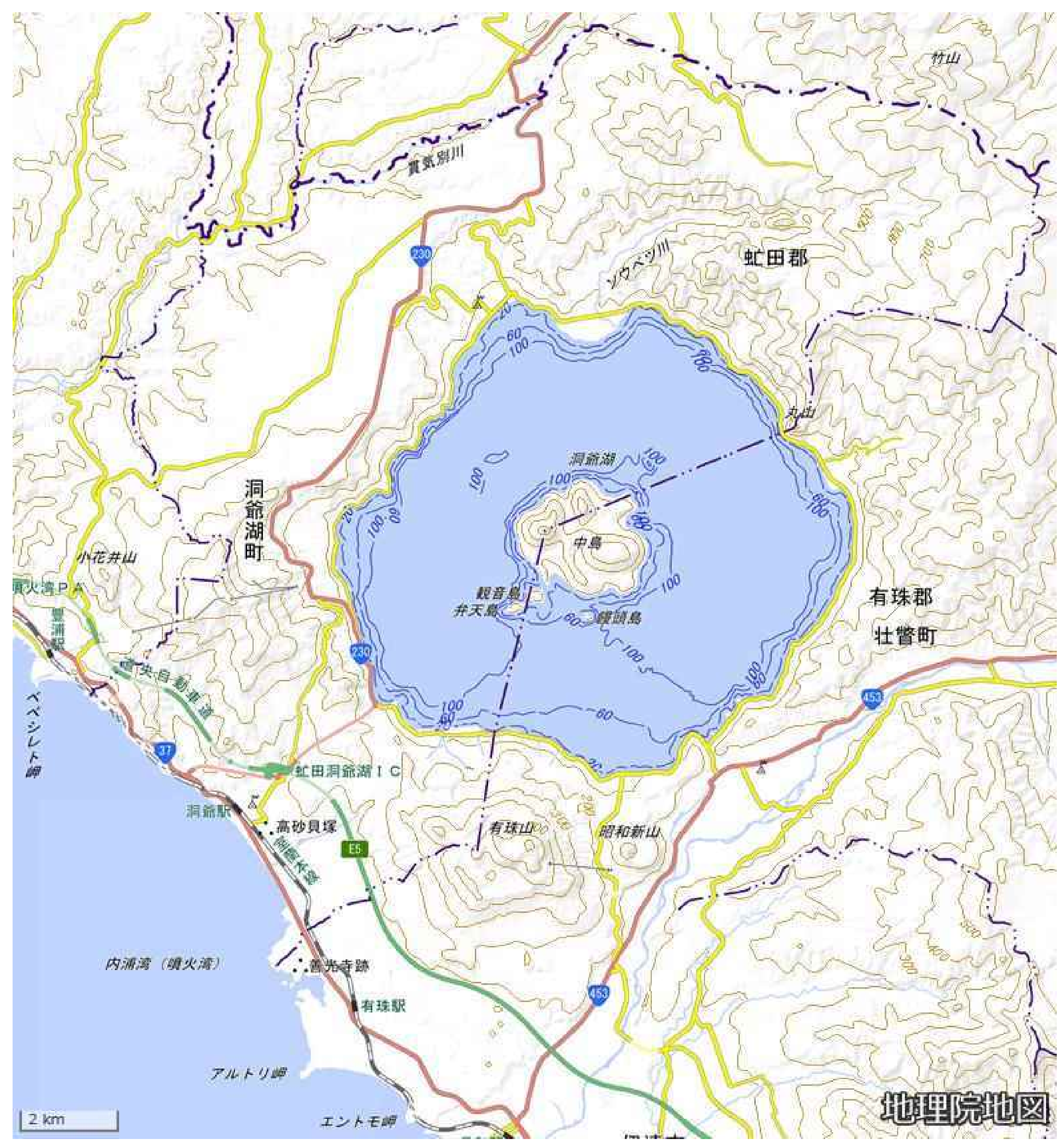
位置

- 北海道
- 関係市町村：洞爺湖町・壮瞥町・伊達市・豊浦町の全域 真狩村・留寿都村の一部
- 面積：約1,180km²
- 事務局：洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会（洞爺湖町役場ジオパーク推進課内）
- <http://www.toya-usu-geopark.org/>

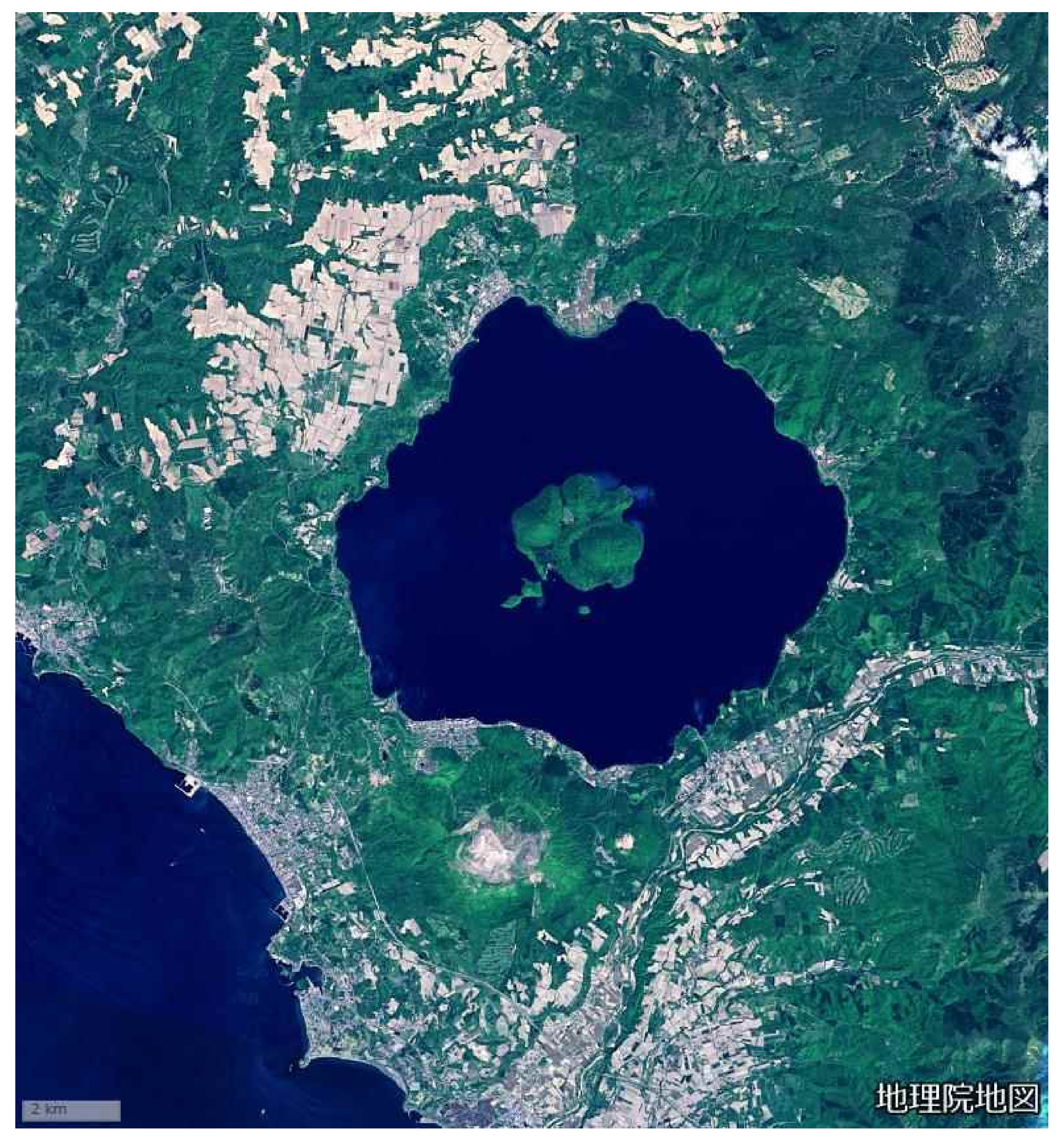


地図と空中写真から眺める(洞爺湖周辺)

- 洞爺湖有珠山ユネスコ世界ジオパークは、北海道内に位置し、支笏洞爺国立公園の一部を含む約1,180km²の面積があり、太平洋に面しています。
- 洞爺湖と中島、有珠山・昭和新山を始め、火山の迫力や、大地の物語を感じる様々な散策コースがあります。
- 1910年の有珠山噴火で誕生した洞爺湖温泉、壮瞥温泉を始め、エリア内には多くの湯処があります。



○地理院地図 LV12



○Landsat8画像
(courtesy of the U.S. Geological Survey)
2013年10月観測

洞爺湖有珠山ユネスコ世界ジオパーク

概要

約11万年前の巨大噴火でできた洞爺湖、約2万年前の火山活動でできた有珠山、1943-45年に誕生した昭和山など、繰り返される火山活動により変動する大地の姿を体感することができます。また、縄文の人々の暮らしが分かる遺跡やアイヌの人々の生活の証なども多く残され、火山と共生してきた人々の歴史を見ることもできます。



特徴

■洞爺湖

約11万年前に発生した巨大火砕流噴火によって、多量のマグマが地上に放出されたためカルデラが形成されました。その後、カルデラ内に水が溜まり現在の洞爺湖となりました。洞爺湖は、面積では国内で3番目に大きいカルデラ湖です。東西約11km、南北約9kmのほぼ円形をしたカルデラ湖であり、その中央には約5万年前の噴火で形成された溶岩ドーム群からなる中島があります。

周辺には多くの動植物が生息し、洞爺湖有珠山ユネスコ世界ジオパークにおいて重要な見どころの一つです。



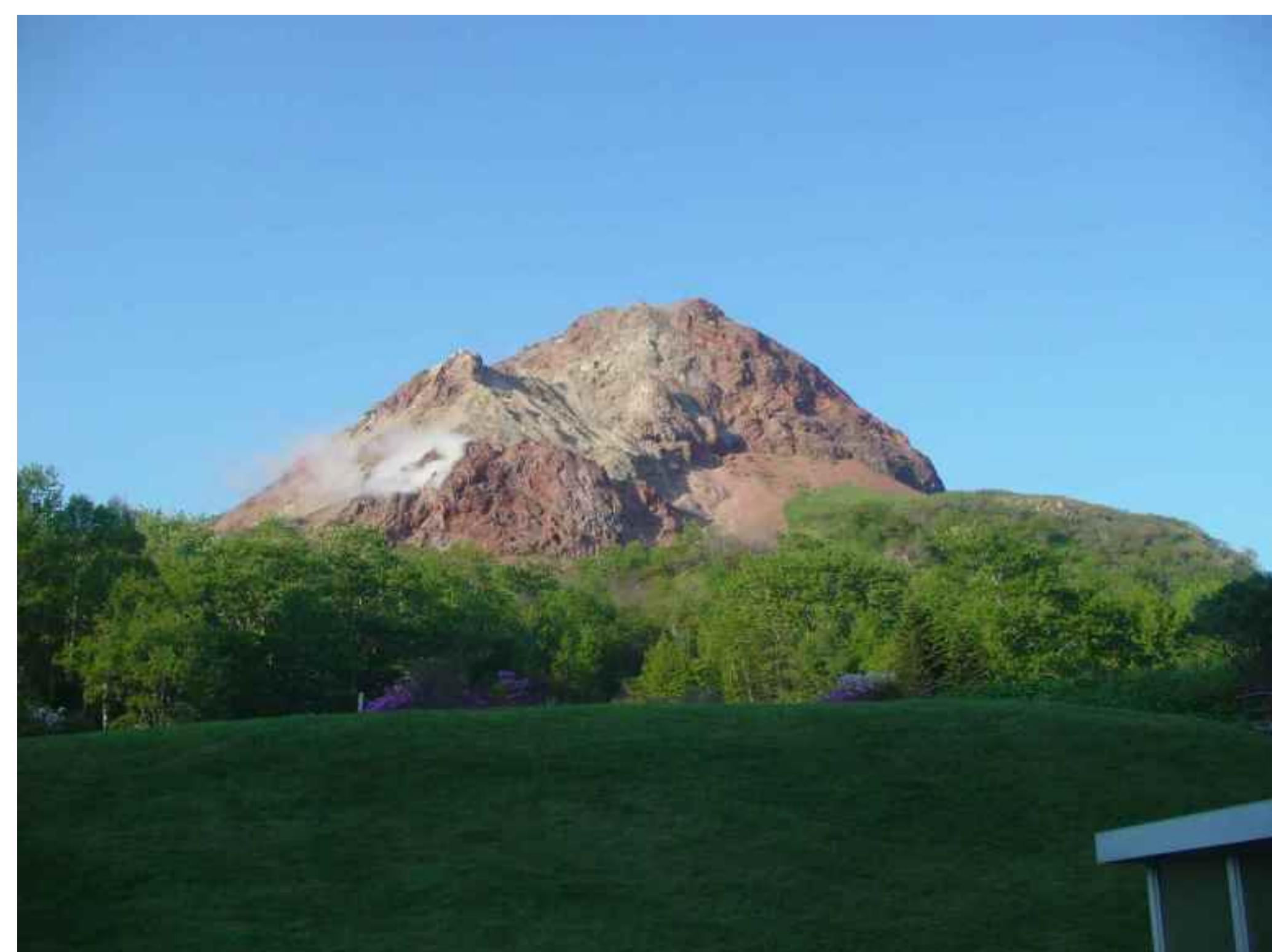
■有珠山

有珠山は、2～1万年前に噴火を繰り返して生まれました。約8～7千年前に山体崩壊を起こしましたが、その後しばらく噴火を休んでいました。1663年に活動を再開し、2000年までに9回噴火しました。周辺の散策路では「火口」や「壊された建物や道路」などを見て、火山の迫力や災害のようすを感じることができます。



■昭和山

もともとは麦畑や集落があった平坦な土地（標高150m）が、1943-45年の火山活動で隆起して標高398mの昭和山が誕生しました。赤茶色の天然レンガで覆われている溶岩ドーム部分の地表の温度は、現在でも高いところで200℃程あります。また、噴火当時、郵便局長であった三松正夫氏が昭和山の生成過程を克明に記録した「ミマツダイヤグラム」も有名です。



洞爺湖有珠山ユネスコ世界ジオパーク

有珠山の噴火

(1850年以降)

■山頂噴火①

1853年大有珠の誕生

■山麓噴火②

よそみやま

1910年明治新山（四十三山）の誕生

温泉が湧出

■洞爺湖温泉

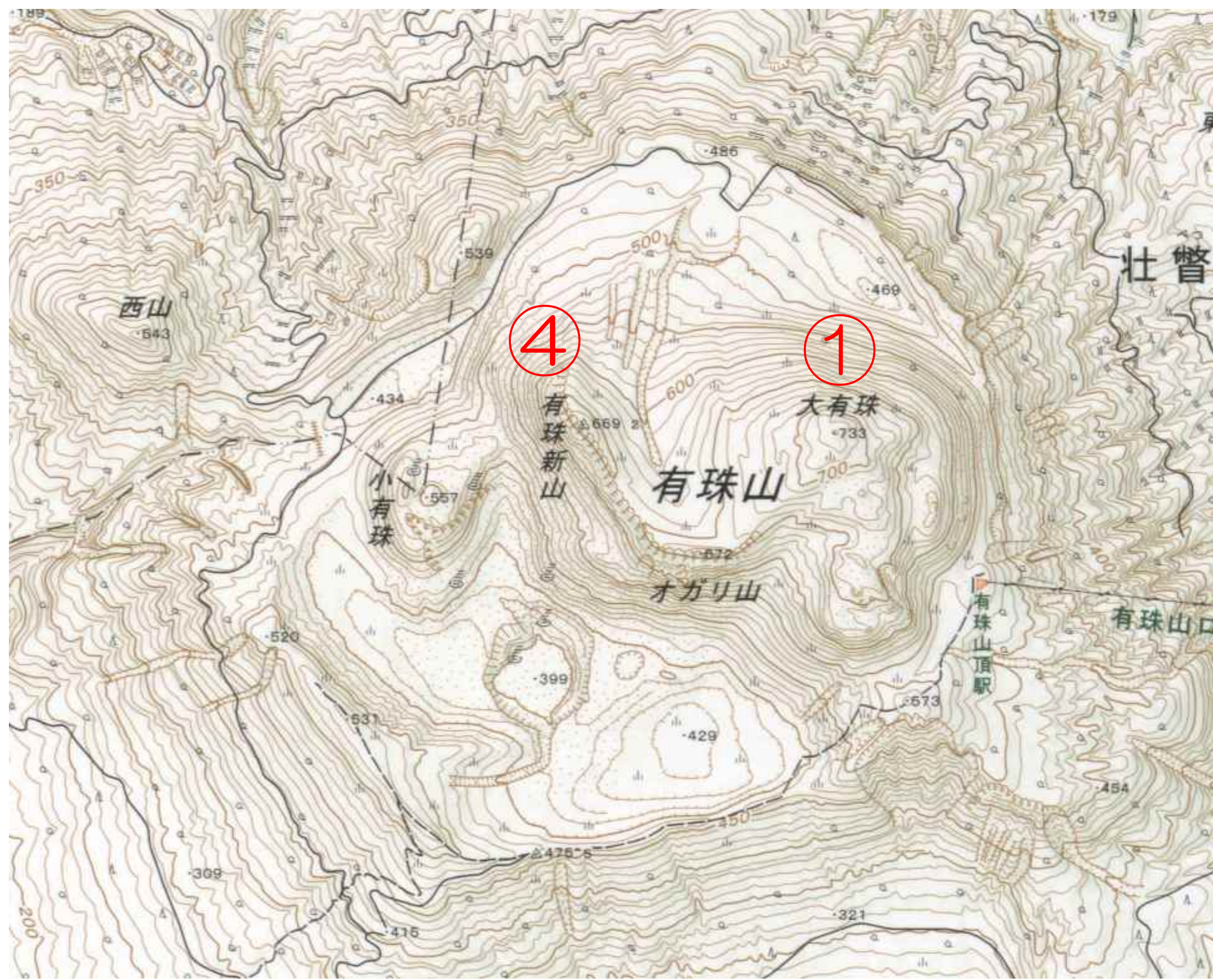
1917（大正6）年6月源泉の発見

■山麓噴火③

1943～45年昭和新山の誕生

■山頂噴火④

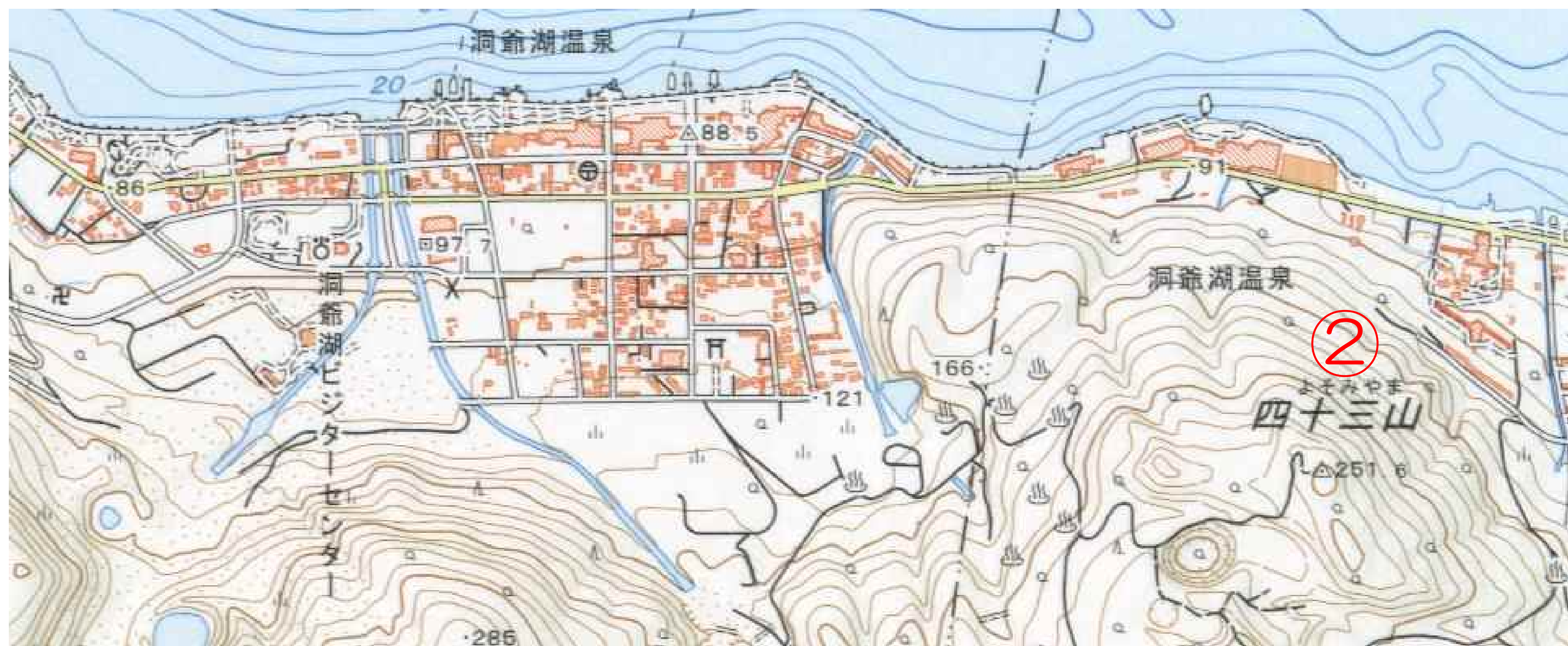
1977～78年有珠新山の誕生



2万5千分1地形図 [洞爺湖温泉] 平成27年測量 (部分拡大)



2万5千分1地形図 [洞爺湖温泉] 平成27年測量 (部分拡大)



2万5千分1地形図 [洞爺湖温泉] 平成27年測量 (部分拡大)



5万分1地形図 [虻田] 大正6年測量 (部分拡大)

■山麓噴火⑤

2000年西山山麓・金比羅山付近に多数の火口をつくる



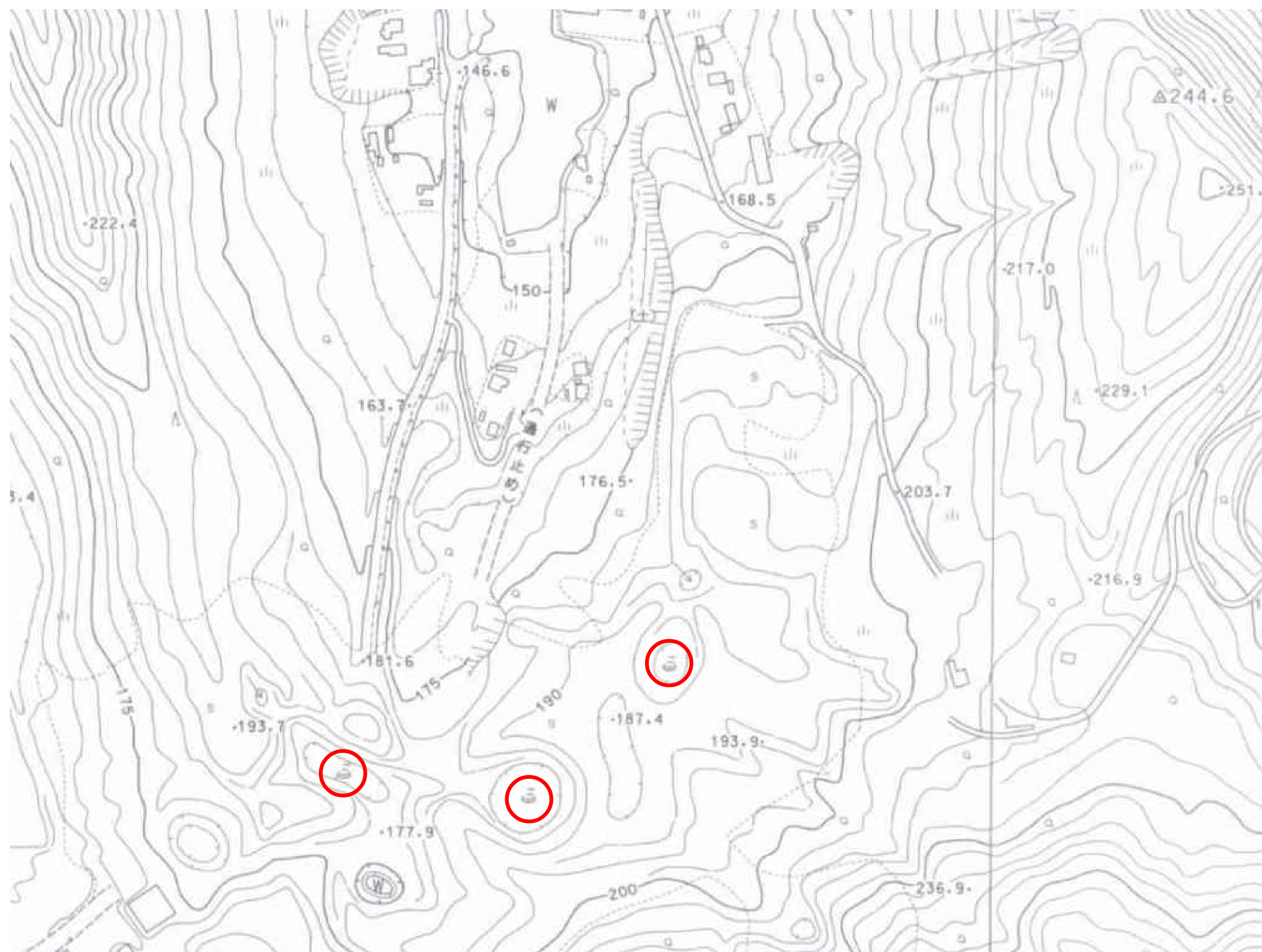
2万5千分1地形図 [洞爺湖温泉] 平成27年測量 (部分拡大)

洞爺湖有珠山ユネスコ世界ジオパーク

有珠山火山基本図

火山基本図は、火山の地形を精密に表す等高線や火山防災施設等を示した地形図です。精密な地形が表示されているため、噴火時の防災計画、緊急対策用のほか、火山の研究や火山噴火予知等の基礎資料としての活用が期待できます。

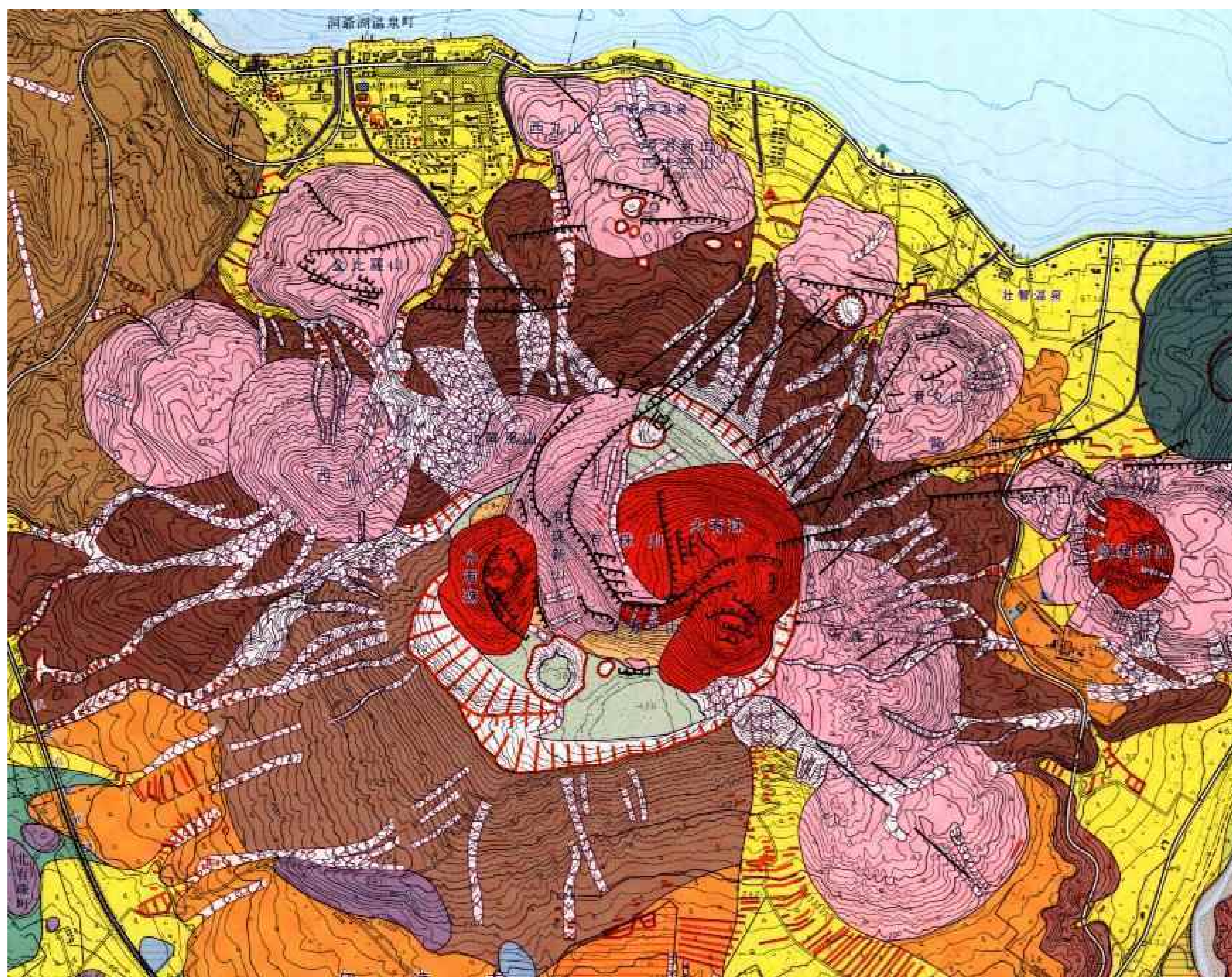
2000年に噴火した火口（○印）がわかります。



2000年作成 1:5,000火山基本図 [有珠山] 部分拡大 (約2.4倍)

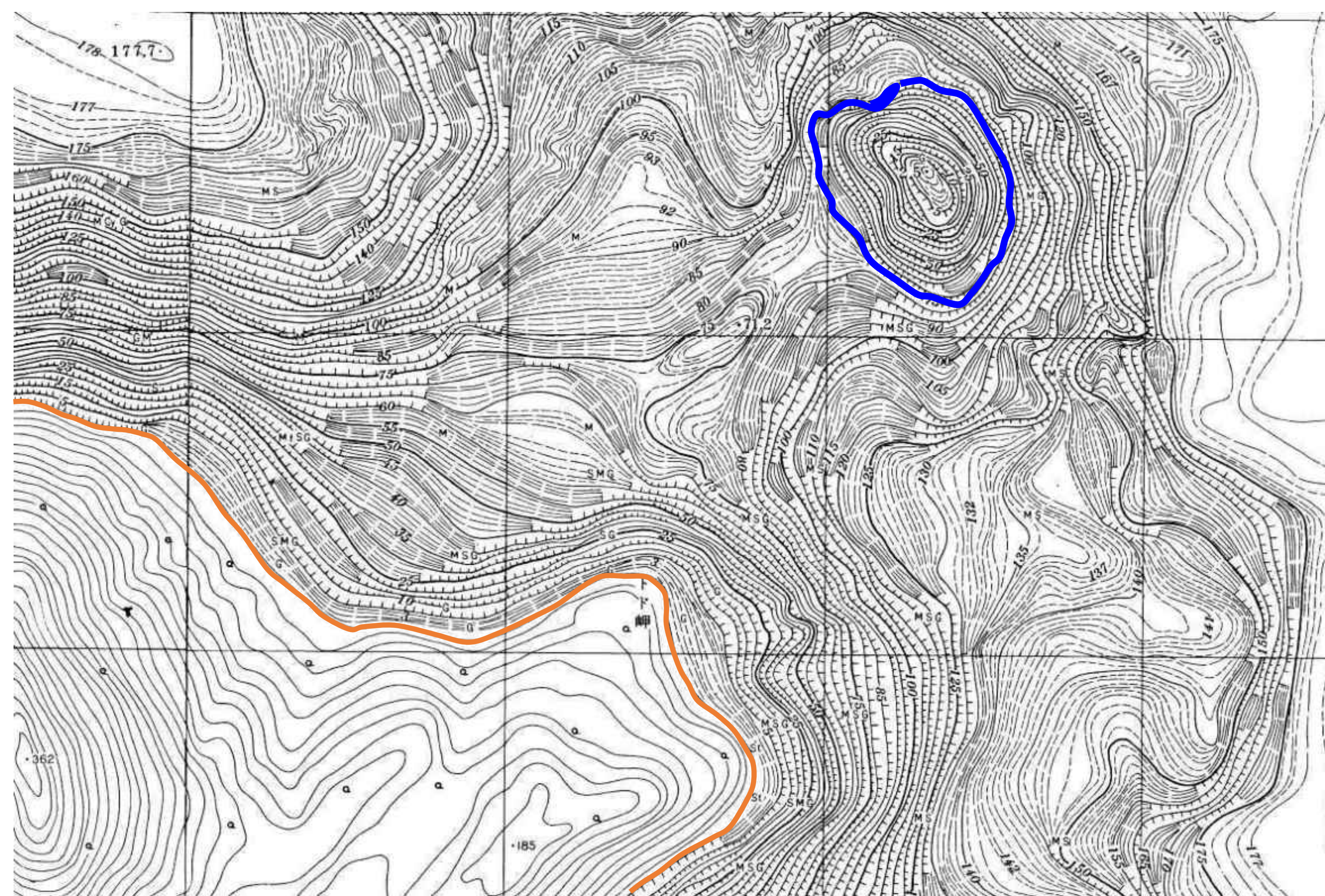
有珠山火山土地条件図

洞爺カルデラ形成時の噴出物による地形や、大有珠・小有珠・昭和新山をはじめとした有史時代の7回の火山活動により形成された地形、その後の侵食・堆積作用により形成された地形など、過去の活動により形成されたこの地域の土地の成り立ちを読み取ることができます。



1:25,000火山土地条件図 [有珠山] 部分拡大 (約1.7倍)

湖沼図 洞爺湖



1:10,000湖沼図 [洞爺湖] 部分拡大(約1.9倍)、一部画線描画

左下部は陸地の中島です。右上部の水部に山のような地形が浮かび上がるのは、約5万年前に起きた中島火山の活動により生成された溶岩ドームの1つです。陸上で誕生したが、現在は水面下にあるため「島になれなかった島」と呼ばれています。

磐梯山ジオパーク

位置

- 福島県
- 関係市町村：猪苗代町、磐梯町、北塩原村
- 面積：688.7km²
- 事務局：磐梯山ジオパーク協議会
<http://bandaisan-geo.com/>

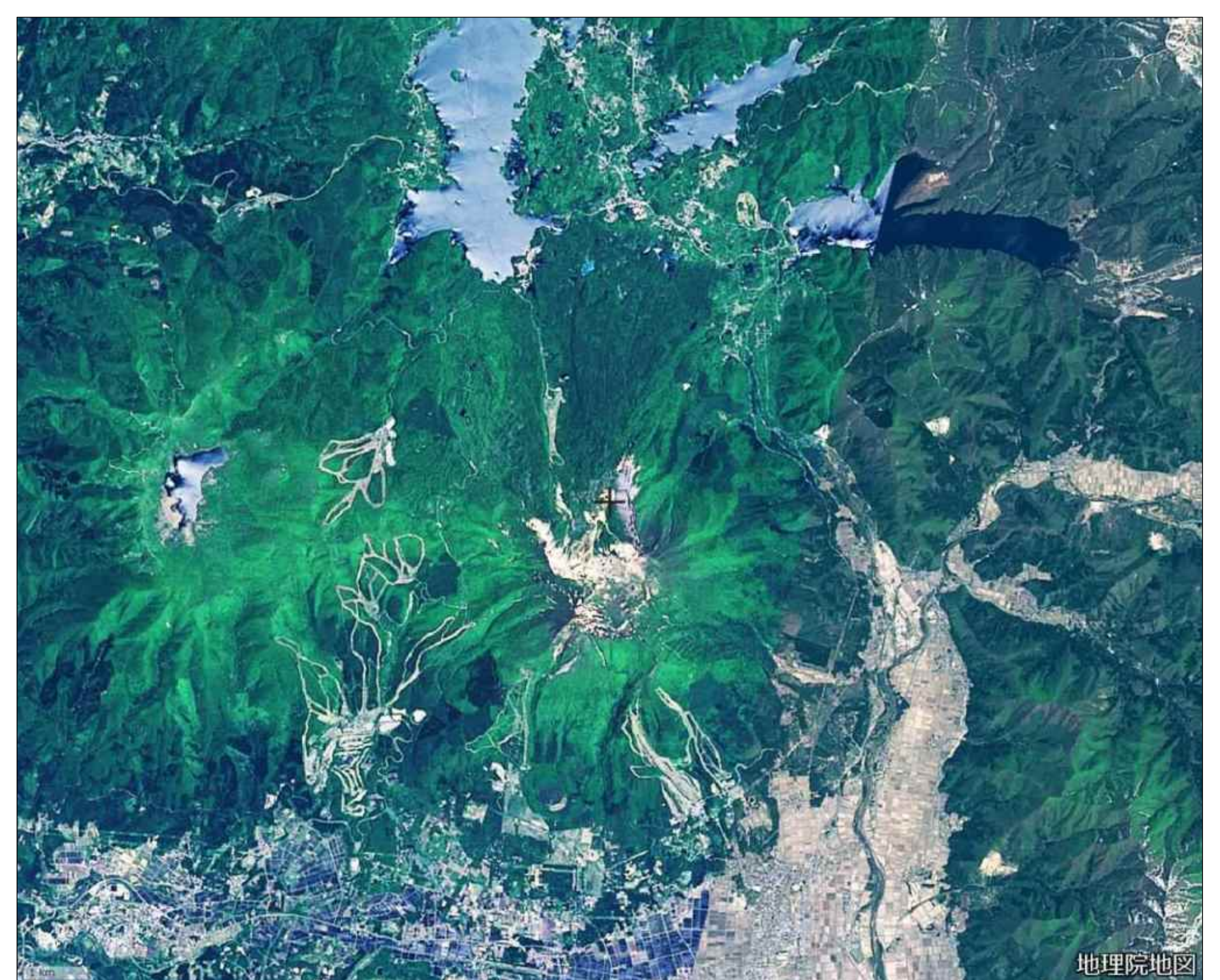


地図と空中写真から眺める

- 1888年の水蒸気噴火による大きな崩壊壁が磐梯山の北方に見られます。
- 磐梯山北側にある小野川湖や檜原湖は、1888年の水蒸気噴火による堰止湖です。



○地理院地図 LV13



○Landsat8画像
(courtesy of the U.S. Geological Survey)
2015年5月観測

磐梯山ジオパーク

概要と特徴



地球上の約1割の火山のある日本にあって、磐梯山は、山体崩壊・岩なだれを発生させる活動が繰り返し起こり、ふもとに多くの湖沼を誕生させたことが特徴的です。特に1888（明治21）年の噴火は、世界で初めて山体崩壊と岩なだれに関する科学的な調査と記録がなされた点で高い価値を持ちます。

磐梯山ジオパークを訪ね、風光明媚で魅力的な自然を楽しみつつ、大地と人との共生の歴史を知り、広く世界に伝えていくことは、私たちのみならず、未来をになう子供たちのためにも、きわめて重要なことと言えますでしょう。

またこの地域には、約4万年前にもこれとは別の巨大な山体崩壊と岩なだれがありました。この地に生きる人々は、大昔から火山災害の恐ろしさと火山がもたらす恵みの両方を受けとめ、生活を営み、歴史を展開してきたのです。

出典：画像 磐梯山ジオパーク協議会提供パンフレット

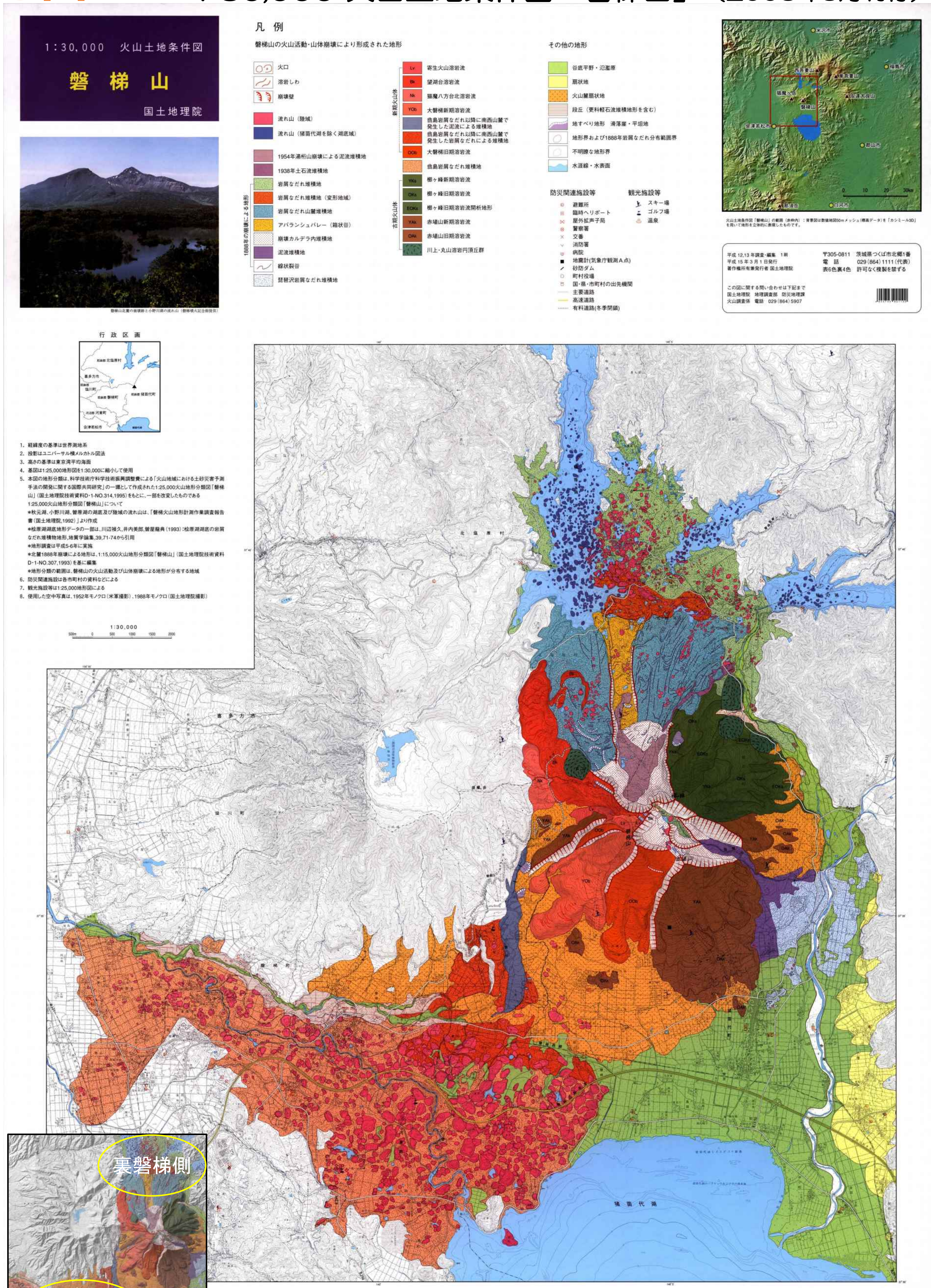
文書 同協議会トップページ <http://bandaisan-geo.com/>

>パンフレットダウンロード 磐梯山ジオパークお宝ガイド②

磐梯山ジオパーク

主題図

1:30,000 火山土地条件図「磐梯山」(2003年3月刊行)



水蒸気爆発が2回発生した火山で「流れ山」地形が残っている。

火山土地条件図「磐梯山」は、福島県のほぼ中央、猪苗代湖の北側に位置する磐梯山とその周辺を主に空中写真判読により地形区分し、磐梯山の火山活動により形成された地形面や崩壊・堆積地形の重なり、分布状況などを一図葉に収めたものです。本図からは、この地域の土地の成り立ちを読み取ることができます。

磐梯山ジオパーク

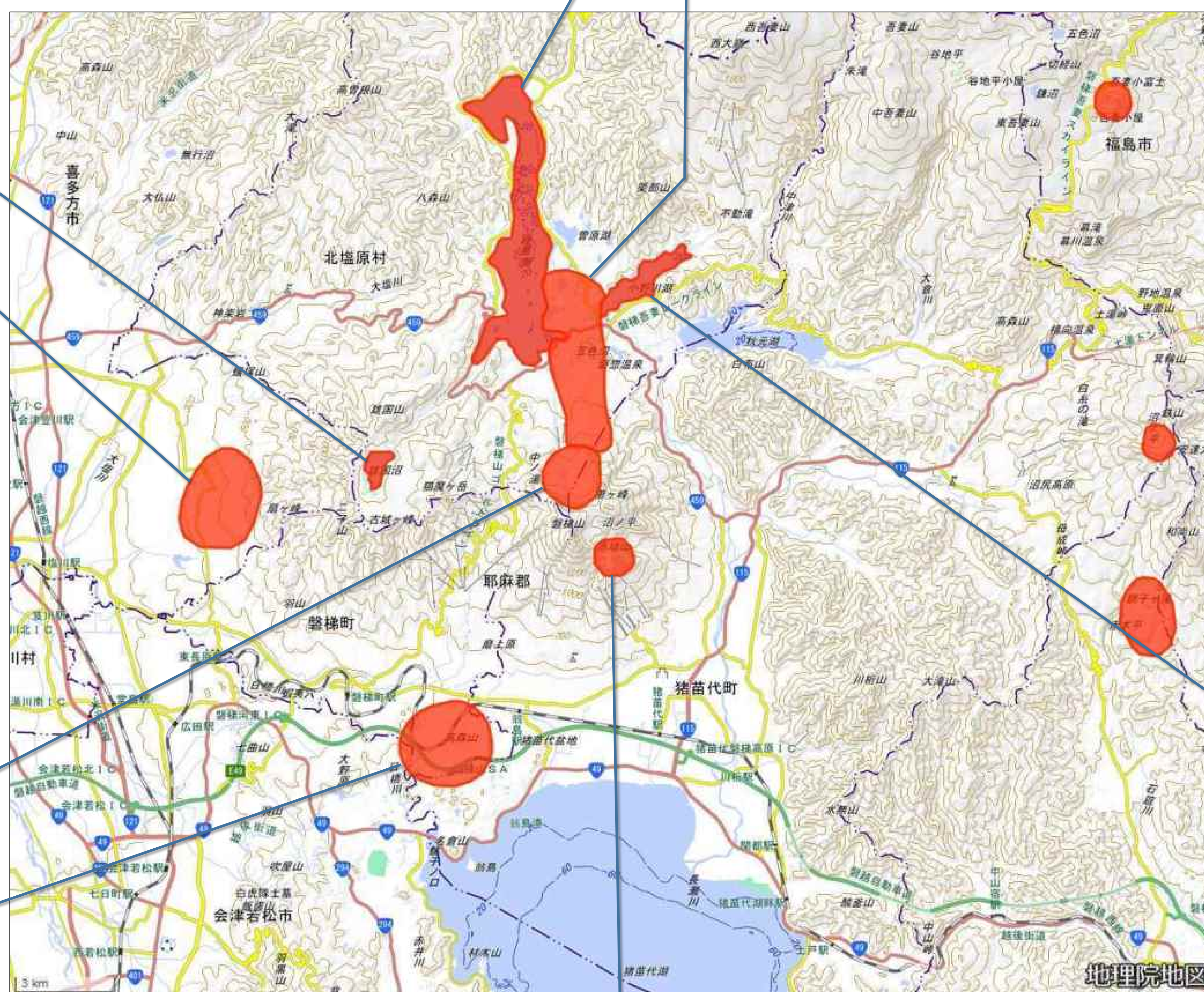
典型的な地形

名称：**雄国山西麓**
地形項目：火山麓扇状地
定義：火山体を刻む谷の谷口を扇頂として裾野に広がる河成の扇状地。

名称：**雄国** 地形項目：カルデラ
定義：火山性の火口状凹地で、直径が2kmより大きいもの。
備考：磐梯朝日国立公園。カルデラ内に雄国沼がある。

名称：**桧原湖** 地形項目：堰止湖
定義：火山活動による溶岩流、岩屑なだれ、泥流などによって堰止められ、生じた凹地に水がたまってできた湖沼。
備考：磐梯朝日国立公園。1888年磐梯山噴火時発生した火山性泥流による長瀬川水系の堰止湖。

名称：**裏磐梯** 地形項目：流れ山（泥流丘）
定義：大規模な火山泥流の堆積地に見られる火山麓の小丘。
備考：1888年磐梯山噴火時に形成。磐梯朝日国立公園。



名称：**扇島**
地形項目：流れ山（泥流丘）
定義：大規模な火山泥流の堆積地に見られる火山麓の小丘。
備考：古期泥流地形。かつて猪苗代湖の水位を上昇させた。

名称：**小野川湖** 地形項目：堰止湖
定義：火山活動による溶岩流、岩屑なだれ、泥流などによって堰止められ、生じた凹地に水がたまってできた湖沼。
備考：磐梯朝日国立公園。1888年磐梯山噴火時発生した火山性泥流による長瀬川水系の堰止湖。

名称：**磐梯山** 地形項目：爆裂火口
定義：爆発的な火山噴火で火山体の一部が吹き飛ばされて生じた火口。
備考：磐梯朝日国立公園。1888年の水蒸気爆発で、小磐梯山が崩壊。

名称：**赤埴（アカハニ）山**
地形項目：寄生火山（側火山）
定義：火山の中腹や裾野に新たに噴火して生じた小火山。
備考：磐梯朝日国立公園